

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の I F 記載要領 2013 に準拠して作成

眼科検査用試験紙

フローレス[®]眼検査用試験紙0.7mg

FLUORES Ocular Examination Test Paper 0.7mg

剤 形	試験紙		
製剤の規制区分	処方箋医薬品 ^{注)} 注) 注意—医師等の処方箋により使用すること		
規格・含量	1枚中 (日局) フルオレセインナトリウム 0.7mg 含有		
一般名	和名：フルオレセインナトリウム 洋名：Fluorescein Sodium		
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日	薬価基準収載年月日	発売年月日
	2009年7月1日 (販売名変更による)	2009年9月25日 (販売名変更による)	1976年10月
開発・製造販売(輸入)・ 提携・販売会社名	製造販売元：あゆみ製薬株式会社		
担当者の連絡先			
問い合わせ窓口	あゆみ製薬株式会社 学術部 電話：0120-369-873 FAX：03-6264-3549 医療関係者向けホームページ http://www.ayumi-pharma.com/med		

本 I F は 2016 年 1 月 改訂 の 添付 文書 の 記載 に 基づき 作成 した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ
<http://www.pmda.go.jp/>にてご確認ください。

I F 利用の手引きの概要

－ 日本病院薬剤師会 －

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、I Fと略す）の位置付け並びにI F記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてI F記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてI F記載要領2008が策定された。

I F記載要領2008では、I Fを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-I F）が原則となった。この変更に合わせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-I Fが提供されることとなった。

最新版のe-I Fは、（独）医薬品医療機器総合機構のホームページ（<http://www.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-I Fを掲載する医薬品医療機器総合機構ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載に合わせてe-I Fの情報を検討する組織を設置して、個々のI Fが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、I F記載要領の一部改訂を行いI F記載要領2013として公表する運びとなった。

2. I Fとは

I Fは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はI Fの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたI Fは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

【I Fの様式】

①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。

②I F記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。

- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「I F利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[I F の作成]

- ① I F は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ② I F に記載する項目及び配列は日病薬が策定した I F 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの I F の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「I F 記載要領2013」と略す）により作成された I F は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[I F の発行]

- ①「I F 記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「I F 記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には I F が改訂される。

3. I F の利用にあたって

「I F 記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体の I F については、医薬品医療機器総合機構ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、I F の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や I F 作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、I F の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、I F が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、I F の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器総合機構ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

I F を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。I F は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、I F があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目次

I. 概要に関する項目	1
1. 開発の経緯	1
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1
II. 名称に関する項目	2
1. 販売名	2
2. 一般名	2
3. 構造式又は示性式	2
4. 分子式及び分子量	2
5. 化学名(命名法)	2
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2
7. CAS登録番号	2
III. 有効成分に関する項目	3
1. 物理化学的性質	3
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3
3. 有効成分の確認試験法	3
4. 有効成分の定量法	3
IV. 製剤に関する項目	4
1. 剤形	4
2. 製剤の組成	4
3. 用事溶解して使用する製剤の調整法	4
4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	4
5. 製剤の各種条件下における安定性	4
6. 溶解後の安定性	5
7. 他剤との配合変化(物理化学的変化)	5
8. 溶出性	5
9. 生物学的試験法	5
10. 製剤中の有効成分の確認試験法	5
11. 製剤中の有効成分の定量法	5
12. 力価	5
13. 混入する可能性のある夾雑物	5
14. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	5
15. 刺激性	5
16. その他	5
V. 治療に関する項目	6
1. 効能又は効果	6
2. 用法及び用量	6
3. 臨床成績	6
VI. 薬効薬理に関する項目	8
1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	8
2. 薬理作用	8
VII. 薬物動態に関する項目	9
1. 血中濃度の推移・測定法	9
2. 薬物速度論的パラメータ	9
3. 吸収	9
4. 分布	9
5. 代謝	10
6. 排泄	10
7. トランスポーターに関する項目	10
8. 透析等による除去率	10

目次

Ⅷ. 安全性(使用上の注意等)に関する項目	11
1. 警告内容とその理由	11
2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)	11
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	11
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	11
5. 慎重投与内容とその理由	11
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	11
7. 相互作用	11
8. 副作用	11
9. 高齢者への投与	11
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	12
11. 小児等への投与	12
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	12
13. 過量投与	12
14. 適用上の注意	12
15. その他の注意	12
16. その他	12
Ⅸ. 非臨床試験に関する項目	13
1. 薬理試験	13
2. 毒性試験	13
Ⅹ. 管理的事項に関する項目	14
1. 規制区分	14
2. 有効期間又は使用期限	14
3. 貯法・保存条件	14
4. 薬剤取扱い上の注意点	14
5. 承認条件等	14
6. 包装	14
7. 容器の材質	14
8. 同一成分・同効薬	14
9. 国際誕生年月日	14
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	14
11. 薬価基準収載年月日	15
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	15
13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	15
14. 再審査期間	15
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	15
16. 各種コード	15
17. 保険給付上の注意	15
XⅠ. 文献	16
1. 引用文献	16
2. その他の参考文献	16
XⅡ. 参考資料	17
1. 主な外国での発売状況	17
2. 海外における臨床支援情報	17
XⅢ. 備考	18
その他の関連資料	18

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

フルオレセインは1871年 A. Bayer によって合成され、はじめ流水検査試薬として、その微量でも蛍光を認識できることから、地下水の水路や汚水だめと井戸のつながりなどを知るのに用いられていた。医薬としては、1909年 Hamberger によって眼疾患診断薬に応用され、近年になって循環時間の測定又は脳腫瘍の研究と、部位診断に応用されるようになった。

また、フルオレセインの水溶液は、角膜の染色によく用いられる染色液であるが、微生物に汚染されやすく、特に緑膿菌により汚染される危険性があった。本剤はろ紙にフルオレセイン水溶液を塗布して滅菌し、緑膿菌汚染を防止するために開発された。

その後、2015年12月に昭和薬品化工株式会社からあゆみ製薬株式会社に製造販売承認が承継された。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 細菌（特に緑膿菌）汚染の危険性がない。
- (2) 使用法が簡便である
- (3) 橙赤色の部分にのみ色素を塗布してあるので、医師の手や患者の衣服を汚すことがない。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

フローレス眼検査用試験紙 0.7mg

(2) 洋名

FLUORES Ocular Examination Test Paper 0.7mg

(3) 名称の由来

2. 一般名

(1) 和名（命名法）

フルオレセインナトリウム（JAN）

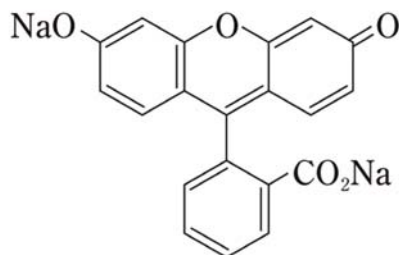
(2) 洋名（命名法）

Fluorescein Sodium（JAN）

(3) ステム（stem）

不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式：C₂₀H₁₀Na₂O₅

分子量：376.27

5. 化学名（命名法）

Disodium 2-(6-oxido-3-oxo-3*H*-xanthen-9-yl)benzoate（IUPAC）

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

なし

7. CAS登録番号

518-47-8

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状¹⁾

だいたい色の粉末で、におい及び味はない。

(2) 溶解性¹⁾

水、メタノール又はエタノール(95)に溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

(3) 吸湿性¹⁾

吸湿性である。

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

(日局)フルオレセインナトリウムの確認試験による。

4. 有効成分の定量法

乾燥減量試験法

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

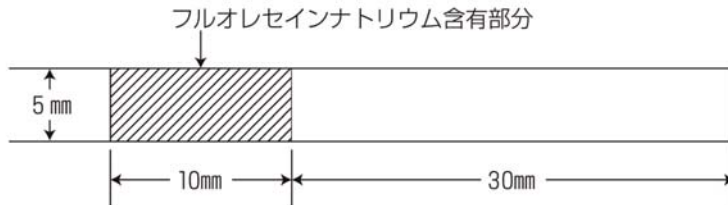
(1) 投与経路

眼球

(2) 剤形の区別、外観及び性状

区別：試験紙

性状：下記の形状をしたろ紙片で、フルオレセインナトリウム含有部分は橙赤色を呈している。



(3) 製剤の物性

該当しない

(4) 識別コード

該当しない

(5) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等

該当資料なし

(6) 無菌の有無

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

1枚中、(日局)フルオレセインナトリウム 0.7mg を含有する。

(2) 添加物

なし

(3) 添付溶解液の組成及び容量

該当しない

3. 用事溶解して使用する製剤の調整法

該当しない

4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

5. 製剤の各種条件下における安定性 ²⁾

保存条件		保存形態	保存期間	結果
加速試験	40°C、75%RH	褐色ガラス瓶	12 ヶ月	変化なし

測定項目：定量

6. 溶解後の安定性

該当資料なし

7. 他剤との配合変化（物理化学的变化）³⁾

フローレス眼検査用試験紙 0.7mg と各種点眼液の配合変化

試料 10mL に 30%のフルオレセインナトリウム 0.5mL をそれぞれ加えて外観を観察した。

○：変化なし ×：混濁

試料名	試料 pH	混合時 pH	外観
塩酸リドカイン	5.14	7.12	×
サンチク点眼液	5.55	7.26	×
0.5%硫酸亜鉛液	5.33	7.48	×
点眼用クロマイ液	6.40	7.04	○
塩酸エピネフリン	2.42	7.68	○
エコリシン点眼液	6.86	8.98	○
ゲンタシン点眼液	6.37	6.56	×
サンコバ点眼液	6.33	7.14	×
サイアジン点眼液	8.00	8.20	○
塩化ベンザルコニウム	7.76	9.81	×
塩化ベンゼトニウム	8.36	9.80	×

8. 溶出性

該当しない

9. 生物学的試験法

該当資料なし

10. 製剤中の有効成分の確認試験法

(日局)フルオレセインナトリウムの確認試験(1)、(3)

11. 製剤中の有効成分の定量法

蛍光光度法

12. 力価

該当しない

13. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

14. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当資料なし

15. 刺激性

該当資料なし

16. その他

該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

外眼部・前眼部及び涙器疾患の検査・眼圧測定・ハードコンタクトレンズ装着検査等

2. 用法及び用量

1眼に1枚の試験紙を用いる。通常、滅菌生食水1滴を試験紙の薬剤含有部に滴下し、これを結膜嚢に接触し、薬物を移行させる。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

① 北野周作ほか(日本大学 眼科)⁴⁾

角膜疾患 67 例、Applanation Tonometry(Guldanann)236 眼、コンタクトレンズ装着検査 179 例に応用したところ、全例に良好な染色成績が得られた。

② 杉浦清治ほか(東大分院 眼科)⁵⁾

角膜疾患 25 例全例において期待通りの染色状態を得ることができた。

③ 早野三郎ら(岐阜大 眼科) —未発表—⁶⁾

びまん性表層角膜炎、角膜湿潤などの角膜疾患、及びその疑いがある 32 例全例において良好な染色が得られ、副作用も認められなかった。

④ 矢藤仁久(市立岡崎病院 眼科) —未発表—⁷⁾

びまん性表層角膜炎、結膜炎などの角膜疾患 77 例全例において良好な染色が得られ、副作用も認められなかった。

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当資料なし

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

該当なし

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序^{1、4~8)}

フルオレセインナトリウムには見るべき薬理作用はなく、専ら眼科領域で蛍光造影診断用薬物として使用される。

本剤を眼科領域に使用したとき、フルオレセインナトリウムはまばたきにより結膜嚢内に移行して角膜上皮欠損部は黄緑色に染色され、異物の周囲には緑色環が現れる。またフルオレセインナトリウムが左右の結膜嚢から消失していく模様を経時的に比較観察して涙道における通過障害の有無を知ることができる。なお、Applanation Tonometer で眼圧測定の際には、点眼麻酔ののち同様にして染色を行う。

このことから、本剤は角膜上皮欠損等の診断及び角膜内に侵入した異物の検出、涙器疾患の検査、眼圧測定時並びにハードコンタクトレンズ装用者の検査時に用いられる。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

- (1) 治療上有効な血中濃度
該当資料なし
- (2) 最高血中濃度到達時間
該当資料なし
- (3) 臨床試験で確認された血中濃度
該当資料なし
- (4) 中毒域
該当資料なし
- (5) 食事・併用薬の影響
該当資料なし
- (6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因
該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

- (1) 解析方法
該当資料なし
- (2) 吸収速度定数
該当資料なし
- (3) バイオアベイラビリティ
該当資料なし
- (4) 消失速度定数
該当資料なし
- (5) クリアランス
該当資料なし
- (6) 分布容積
該当資料なし
- (7) 血漿蛋白結合率
該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

- (1) 血液—脳関門通過性
該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

(2) 血液—胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450 等）の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ¹⁾

静脈注射後、大部分が血漿たん白と結合して存在するが消失半減期は5分と非常に短く、尿中排泄物は未変化体である。

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度¹⁾

静脈注射後、24～36時間以内にほとんど排泄される。

7. トランスポーターに関する項目

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

該当しない

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

該当しない

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

該当しない

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

該当しない

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

該当しない

(3) その他の副作用

該当しない

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

該当資料なし

9. 高齢者への投与

該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

該当資料なし

11. 小児等への投与

該当資料なし

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

- (1) ソフトコンタクトレンズは、本剤により着色するおそれがあるので、装着検査には使用しないこと。
- (2) フルオレセインナトリウムを特に微量用いたいときは、生理食塩液 1 滴を試験紙の薬剤含有部に滴下し、一度雫を落としてから使用すること。
- (3) 試験紙を濡らさないで直接結膜に接触させたい場合には、やや痛みを伴うことがあり、また、約 5 秒間おしつけていないと色素が出にくい場合があるので適当ではない。

15. その他の注意

該当しない

16. その他

取扱い上の注意

- (1) 生理食塩水を滴下するときは、薬剤含有部の先端に、静かに一滴を落としてください。
- (2) 薬剤含有部に滴下する生理食塩液の代わりに、常用の化学療法剤、点眼麻酔剤、手術滅菌剤などの点眼液を使用することができます。
- (3) 保存中における汚染や吸湿がないように注意し、密栓後遮光保存してください。

* 「使用上の注意」は改訂されることがありますので、最新添付文書も併せてご覧ください。

Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験

(「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験⁹⁾

急性毒性試験

ラット経口	LD50	1895mg/kg
ラット腹腔内	LD50	300mg/kg
ラット静注	LD50	200mg/kg
マウス静注	LD50	370mg/kg
アレチネズミ経口	LD50	1930mg/kg

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤：フローレス眼検査用試験紙 0.7mg 処方箋医薬品^{注)}

有効成分：フルオレセインナトリウム 処方箋医薬品^{注)}

注) 注意一医師等の処方箋により使用すること

2. 有効期間又は使用期限

5年 (外箱に記載)

3. 貯法・保存条件

室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について

該当しない

(2) 薬剤交付時の取り扱いについて (患者等に留意すべき必須事項等)

「Ⅷ：安全性 (使用上の注意等) に関する項目」の「14. 適用上の注意」を参照。

患者向医薬品ガイド：なし

くすりのしおり：なし

(3) 調剤時の留意点について

該当しない

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

200枚 (25枚×8瓶)

7. 容器の材質

ガラス瓶

8. 同一成分・同効薬

同一成分薬：フルオレサイト静注 500mg (日本アルコン)

同 効 薬：なし

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

販売名	製造販売承認年月日	承認番号
フローレス眼検査用試験紙 0.7mg	2009年7月1日	22100AMX01602000

(旧販売名) フローレス試験紙 (経過措置期間終了日：2010年6月30日)

薬価基準収載年月日：1976年9月1日

11. 薬価基準収載年月日

販売名	薬価基準収載年月日
フローレス眼検査用試験紙 0.7mg	2009年9月25日

(旧販売名) フローレス試験紙 (経過措置期間終了日: 2010年6月30日)
 薬価基準収載年月日: 1976年9月1日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

再評価: 1986年12月3日

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬 (あるいは投与) 期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	HOT (9桁) 番号	厚生労働省薬価基準収載 医薬品コード	レセプト電算コード
フローレス眼検査用試験紙 0.7mg	112002803	7290703T1039	621200201

(旧販売名) フローレス試験紙 (経過措置期間終了日: 2010年6月30日) HOT (9桁) 番号: 112002803、
 厚生労働省薬価基準収載医薬品コード: 7290703T1020 レセプト電算コード: 667290002

17. 保険給付上の注意

本剤は、診療報酬において加算等の算定対象となる後発医薬品である。

X I . 文 献

1. 引用文献

- 1) 日本公定書協会編、第十五改正日本薬局方解説書(廣川書店)、C-3654~3658(2006)
- 2) あゆみ製薬(株) 社内資料 フローレス眼検査用試験紙 0.7mg の安定性試験
- 3) あゆみ製薬(株) 社内資料 フローレス眼検査用試験紙 0.7mg の配合変化試験
- 4) 北野周作ほか、眼科、5(7)、535(1963)
- 5) 杉浦清治ほか、眼科臨床医報、57(3) 212~214(1963)
- 6) 早野三郎ほか、あゆみ製薬(株) 社内資料 フローレス眼検査用試験紙 0.7mg の使用経験
- 7) 矢藤仁久、あゆみ製薬(株) 社内資料 フローレス眼検査用試験紙 0.7mg の使用経験
- 8) 古味敏彦、日本医事新報、2038、103(1963)
- 9) 化学物質毒性データ総覧(日本メディカルセンター)、558(1976)

2. その他の参考文献

なし

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

発売されていない

2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

XⅢ. 備考

その他の関連資料

該当資料なし

-----MEMO-----

A series of horizontal dashed lines for writing.

-----MEMO-----

A series of horizontal dashed lines for writing, consisting of 25 lines.

-----MEMO-----

A series of horizontal dashed lines for writing.



2016年1月
(E-16AYM)